市労連ＯＢ会の原稿・・・２００４，２

「安土八幡市」でいいじゃないか

ＰＳＳ課　西川秀夫

市町村合併については、職員や市民の多くが関心を寄せているところであり、近江八幡市は合併できないのじゃないかとか、どこと合併するのか、などと市民のお声もいただいているところである。ＯＢ会員の中には、日夜そのことにご尽力されている方もおられる。この話は直接には合併話とは関係ないが、側面からの支援の一助にはなるのではないかと考え寄稿させていただきます。

「織田信長サミット」というのが毎年、織田信長と関係のある市町村によって開催されているのは、よくご存じのことと思います。滋賀県では、安土町、朽木村、高島町、永源寺町の４町（タウン）が参加し、近隣では、京都市、岐阜市をはじめ愛知県の清洲町、奈良県の天理市、桜井市、福井県の織田町、遠くは山形県の天童市、群馬県の甘楽町などが参加し構成されています。いずれも織田信長やその子孫の藩関係また、織田家の発祥地などです。（その点では有楽町の語源となった織田有楽斎の屋敷があった東京が参加していないのは残念ではありますが・・）隣の安土町では近年盛大に「信長まつり」も行われ、「信長（出陣）太鼓」なども振興されています。別に嫌み（僻みじゃないよ）じゃないですが、織田信長に関係するのは、安土町もさることながら我が近江八幡市も負けてはいない（信長サミットに参加する資格は十二分にある）と思うのであります。

織田信長サミットにも参加している「織田（信長）一族発祥の地」とされる福井県織田町には、「織田剣神社（越前二の宮神社、　剣神社）」があります。この剣神社の社伝縁起には「戦国武将織田氏は、織田剣大明神の神官であった忌部氏の後裔にあたる。室町初期の応永年間、神官の子常昌は、当時尾張と越前の守護を兼任していた斯波義重にその才能を見出され、家臣としてとりたてられ尾張におもむき、そこに土着した。のちには、尾張の守護代にまで抜擢され、姓は祖の生まれた所の地名をとり、織田氏を称えた。」と記述があります。

織田氏が幕府（徳川）に提出した正式な系図によりますと、織田氏の始祖は「平（たいら）　親実（ちかざね）」が初代となっています。この平（たいら）　親実（ちかざね）は、壇ノ浦で死んだ平　資盛の第二子（平　重盛の子という説もある）であるが、その母某が近江津田郷の豪族の娘であったことから、生後間もない親実をふところに抱いて近江に逃れ、津田郷にかくまわれた。その後、越前織田郷の剣神社の神主（忌部氏）が親実を養子にした。親実の孫の（忌部）親行が、弘安四年の元寇の役で功があり、土豪から後家人となり織田荘の荘官（地頭）を務めることとなった。その後、越前と尾張の守護大名であった斯波氏に従って尾張に進出、親行から六代後の常昌（常松とも書かれている文献あり）が尾張八郡の守護代となり織田姓を名乗った。織田信長は、その常昌から１１代目にあたるとされています。

この社伝からも分かるように、近江津田郷（現近江八幡市の津田郷）から出た始祖が越前織田荘へ行き、尾張で織田姓を名乗り勢力を得た。その織田一族の中から、それも分家

筋から織田信長が出てくるのであります。

その信長の一族で津田姓を名乗って活躍する織田家の一員も多くいます。信長の甥の信澄も津田姓を名乗っています。　信澄は、信長と家督争いをして誅殺された弟・勘十郎信行の息子で、本能寺の変のあと、明智光秀の娘を娶っていたために織田信孝に疑われて誅殺された近江湖西の大溝城主、津田七兵衛信澄であります。織田家の一員ながら、なぜ津田姓を名乗っているのでしょうか。津田家とはいったいどこの家門なのでしょうか。信雄、信孝のように他家に養子に入ったとも聞きません。信長の一族でこの津田姓を名乗っているのは、この信澄だけではありません。信長の兄弟、子、甥のうち５人が「津田姓」を名乗っているのです。これは、乗っ取りのための養子縁組ではなく、信長の一族ぐるみで「津田姓」と縁があったと思いたくなります。童門冬二氏によれば、津田一族は織田家の発祥に深い関わりをもっていることはうかがえるが、信長の時代に津田一族はどう関わってきたのか、どんな役割を担ってきたのかは未だよく分からない。ということです。近江といえば、近江商人、甲賀忍者、木地師の里、修験者、城づくりの穴太衆、湖族など、技術集団や諜報を影で支えるネットワークがあったのかもしれない。越前の織田荘も「丹生」という地名であり鉱業集団の存在が見え隠れしている。いずれにせよ津田一族はまだまだ謎の多い一族ではあるが、津田を名乗る一族の本拠地がこの近江八幡にあったことは、間違いなく、織田と津田は古くから親戚並の付き合いをしており、津田からの古い分家が織田であろうと考えるのです。

つまり、平家某が津田家に入り、織田家の養子になったと考えれば、その子孫の織田信長は織田家始祖の本貫地（本拠地）であるこの近江八幡市に錦を飾ったのであると解釈できるのです。そう考えれば、たまたま城を作った（八幡山に城を築くことになれば、大切な津田一族の本貫地が荒らされることになるからその点を配慮したとも考えられる）安土の地よりも織田信長との縁は近江八幡のほうが深いのではないかと思うのです。ですから、織田信長サミットへの参加資格は近江八幡市も十分に持っていると思います。

以上、ながながと説明したのは、織田信長が本能寺の変で殺された後、信雄が焼いた安土城下の町屋を八幡山下に移築したりしており、安土と近江八幡は母屋新屋の関係にあるということを言いたかったためであります。安土城も近江八幡（津田氏の本拠地）が隣にあったからそこに作られたとも言われています。八景でも「春色、安土・八幡の水郷」と呼ばれているように、安土と八幡は地域的には一体でいいと思うわけです。そして出した結論が表題の「安土八幡市」というわけです。余談ですが信長の母は土田御前といいますが、その土田氏の出自も近江の豪族佐々木義詮の子孫といわれ近江八幡市土田町の出だとも言われていますが定かではありません。もう少し確証を得たいと思っています。なお土田氏は生駒氏とも親族関係にあったので、そのあたりから切り崩していけるかなとも考えています。また、ついでですが、坂本竜馬の「坂本」は明智光秀の「坂本城」の坂本であったことを、「歴史の常識」として記憶にとどめられるとよろしいかと存じます。